はじめに

本シリーズ【大学受験ナビゲーション】は、大学入試合格を目指す皆さんのパートナーとして、その目的地へと導きます。

■編集の趣旨

本書は漢文を**基礎から始めて、センター試験レベルの問題に取り組める実力を養成する**ことを目的としています。そのため、漢文の基礎知識、漢文の句形、語彙、用語を網羅し、センター試験の過去問題も演習できるよう配慮しました。

■特長と利用方法

本書は、次に示す五つのパートとコラムで構成されています。

【基礎編】 漢文を学習する上で必要な**基礎的な内容**をまとめました。右ページには代表的な内容を**例文とともに提示**し、解説をつけました。**左ページの問題**で学習事項が定着しているかどうかを確認できます。

【句形編】 **代表的な句形**を右ページ上段に提示し、下段に注意点などを解説しています。左ページの設問では右ページ上段の**句形を全て出題**してありますので、学習事項が定着しているかどうかを**即座に確認**できます。

【語彙編】 漢文の**句形に用いられる字や文法的に重要な字、字義が多い字**について、五十音順にまとめました。字義は頻度順に並べてあります。また**全ての意味に例文**をつけ、どのように使われるかがわかりやすいようにしてあります。句形に使われている場合、参照ページを示しています。

【資料編】 漢文の**背景となる用語や知識を分野別**にまとめました。この用語をどれだけ知っているかで、漢文を読む際、より**内容や状況を類推できる**ようになります。時間のあるときに読み、語彙を定着させてください。また最後の項目には**代表的な故事成語**がまとめてあります。

【センター試験問題演習編】 センター試験の過去問題を取り上げ、**詳しく解説**しています。まずは設問を解いてみてください。解説中、句形に関連する解説については、(➡ p.124)のように**該当の句形のページを示し**、再度その句形について学習できるようにしてあります。句形を確認しながら解説を読んでください。解説の後に**書き下し文と口語訳**を付けました。**一文ごとに番号**を付けてあるので、確認しやすくなっています。

【コラム】 漢文に関するコラムを設けてあります。学習の合間に読んでみてください。目から鱗の情報が満載です。

本書を利用するにあたって、【基礎編】【句形編】は問題を解きながら記載事項を暗記するよう心がけてください。その後は漢文学習の際、常に傍らに置いておき、すぐに調べるという使い方をすると最適です。

本書が漢文学習、さらには志望大学合格への一助となることを願っています。

●記号類について

（基礎編・句形編・語彙編共通）

（　）直前の語と入替可能

［　］省略可能

〔　〕活用語

〈　〉補足説明

読　句形の読み方（赤字が句形の読み）

意　句形の意味（赤字が句形の意味）

書　書き下し文

訳　現代語訳

基本　基本的な事項

確認　再度確認しておきたい事項

参考　補足的な事項

（語彙編）

例

悪　❶あく・あシ〔悪・悪いこと〕▼悪人・善悪

人　之　性ハ　悪ナリ。

人の性は悪なり。

人間の本性は悪である。

❶❷❸❹…　意味ごとの収録番号（使用頻度順）

あく・あシ　字の読み（カタカナは送り仮名。〔　〕の中がこの読みの場合の意味）

▼　その意味で用いられている熟語

＝　同意漢字

＊　語釈（人名、地名、難解語など）

➡　関連する句形の収録ページ

◇出典について◇

本書では〈　〉の中に、韻文の場合は著者名「作品名」を、それ以外の作品には書名と章名（作者名・書名もあり。）を記載しています。

《例》曽先之・十八史略

目次

基礎編

1 漢文入門　訓読・熟語の構造・漢文の構造　8
2 書き下し文　10
3 返り点①　レ点・連続するレ点・一二点　12
4 返り点②　上中下点・レ点・ハイフン・甲乙丙丁点　14

句形編

1 再読文字①　18
2 再読文字②　20
3 否定①　単純な否定　22
4 否定②　禁止　不可能　24
5 否定③　部分否定　26
6 否定④　二重否定 1　28
7 否定⑤　二重否定 2　30
8 否定⑥　特殊な否定　32
9 疑問①　疑問詞を用いる形 1　34
10 疑問②　疑問詞を用いる形 2　36
11 疑問③　疑問詞を用いる形 3　38
12 疑問④　疑問詞を用いる形 4　40
13 疑問⑤　疑問詞を用いる形 5　42
14 疑問⑥　疑問詞を用いる形 6　44
15 疑問⑦　文末に疑問詞を用いる形　46
16 疑問⑧　特殊な疑問　48
17 反語①　疑問と同じ形のもの 1　50
18 反語②　疑問と同じ形のもの 2　52
19 反語③　疑問と同じ形のもの 3　54
20 反語④　反語特有の形　56
21 詠嘆①　文頭の感動詞や文末の助字を用いる形　58
22 詠嘆②　疑問・反語を用いる形　60
23 使役①　他者に何かをさせることを表す形　62
24 使役②　使役を暗示する動詞や文脈から使役を表す形　64
25 受身①　他者から何かをされることを表す形　66
26 受身②　置き字を用いる形・「為・所」を用いる形　68
27 仮定①　条件を示してその結果を予想する形　70
28 仮定②　仮定の接続詞を用いる形　72
29 仮定③　否定語を重ねて使う仮定　74
30 限定①　文頭に限定の副詞を用いる形　76
31 限定②　文末に限定の助字を用いる形　78
32 累加①　否定と限定で他の事柄をつけ加える形　80
33 累加②　反語と限定で他の事柄をつけ加える形　82
34 比較①　「於（于・乎）」や「如（若）」を用いて比較する形　84
35 比較②　「莫」を用いて最上級の比較を表す形　86
36 選択①　禁止や疑問で、二つから選択する形　88
37 選択②　後半の内容を選択する形　90
38 比況　動作や状態をたとえて表現する形（比喩）　92
39 抑揚①　前文を抑え、後文を強調する形 1　94
40 抑揚②　前文を抑え、後文を強調する形 2　96
41 願望　自分の希望または相手への願望を表す形　98

語彙編（五十音順）

悪　安　已　以　矣　為　謂　遺　因　104
于　亦　易　焉　於　106
応　可　仮　過　蓋　108
其　豈　幾　宜　況　教　竟　具　110
今　奚　見　遣　故　112
乎　固　胡　肯　苟　114
盍　哉　之　斯　使　耳　116
而　自　事　爾　118
疾　者　若　須　120
従　縦　且　所　女　如　122
少　嘗　将　勝　124
食　尽　遂　雖　数　126
是　請　説　然　128
相　即　則　130
卒　対　乃　但　中　直　132
輒　適　徒　度　134
当　独　寧　能　被　136
夫　復　便　也　邪　138
愈　唯　又　由　遊　猶　与　140
欲　令　或　142

基礎編

――漢文入門／書き下し文／返り点

資料編　漢文を読むために知っておきたい用語と知識

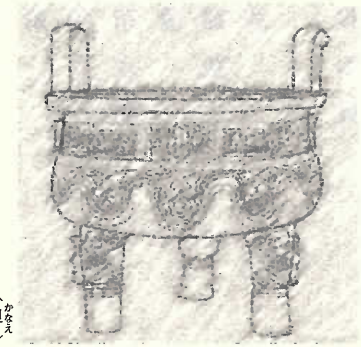
- 呼び名・呼び方／一人称／二人称／地位・蔑称　146
- 宮廷の用語／歴史と人物　147
- 思想　148
- 自然・物　149
- 文学　150
- 故事成語　152

センター試験問題演習編

① **四溟詩話**　156
② **陋軒詩**　167
③ **琴操**　178
④ **芸圃偸談**　189

コラム

1　漢文は共通の「書き言語」／儒教について／漢文を書いた人々　16
2　宝と美／虎と象、龍は実物を見て作った漢字　100
3　髪を結う理由／蛇は虫。虹も虫。　144



（鼎）

1 漢文入門

訓読・熟語の構造・漢文の構造

漢文は中国の古典を、日本語として読むものである。発音も文法も異なる漢や唐や宋の書物を、日本語で理解しようとした結果、考え出されたのが訓読という読み方である。

訓読　漢文を日本語として読む

白文　訓点をつける前の中国の古典の原文。

訓読文　漢文を日本語として読む符号（訓点）のついた文。

訓点　訓読をするための返り点・送り仮名・句読点。

返り点　日本語として読む順番を示した符号。

送り仮名　その語の日本語としての読み方を示した仮名。

句読点　どこで意味が切れ、文が切れるかを示した符号。

書き下し文　訓点に従い漢字仮名交じりの日本語にした文。

白文　走山谷間

訓読文　走（ル）山谷間（ノヲ）

書き下し文　山谷の間を走る。

（送り仮名　句読点　返り点　訓点）

熟語の語順

①日本語と同じ語順のもの

・活用語尾・助詞・助動詞を送り仮名として補う。

主語＋述語　雷鳴　雷鳴（ガル）→雷が鳴る

修飾語＋被修飾語　高山　高山（キ）→高き山

並列　風雨　風（ト）雨→風と雨

②日本語と異なる語順のもの

・送り仮名だけでなく、読む順番を示す返り点も必要。

述語＋目的語　読書　読レ書（ムヲ）→書を読む

述語＋補語　登山　登（ル）レ山（ニ）→山に登る

述語＋主語　有レ名　有（リ）名→名有り　多レ才　多（シ）才→才多し

漢文の語順

日本語と異なる語順の部分は返り点をつけ日本語の語順にする。

主語＋述語　平王立。（ヘいわうッ）→平王立つ。

主語＋述語＋目的語　我引レ弓。（クヲ）→我弓を引く。

主語＋述語＋補語　我遊レ湖。（ブニ）→我湖に遊ぶ。

主語＋述語＋目的語＋補語　孔子問レ礼於老子。（フヲニ）→孔子礼を老子に問ふ。

主語＋述語＋補語＋目的語　項梁教レ籍兵法。（かりやうをしフせきニヲ）→項梁籍に兵法を教ふ。

■1　次の熟語の構造をあとのア～オから一つずつ選べ。

①乗馬　②兄弟　③日没

④美人　⑤延期

ア　主語＋述語

イ　修飾語＋被修飾語

ウ　並列

エ　述語＋目的語

オ　述語＋補語

■2　次の漢文に、下の書き下し文を参考にして送り仮名を施せ。

①再会〔再び会ふ〕

②花開〔花開く〕

③大器晩成〔大器は晩成す〕

■3　次の漢文に、下の書き下し文を参考にして訓点を施せ。

①我作詩〔我詩を作る〕

②歳月不待人〔歳月は人を待たず〕

解答と解説

1①オ　②ウ　③ア　④イ　⑤エ

★①馬に乗る　②兄と弟　③日が没す　④美しき人　⑤期を延ばす

2①再会　②花開　③大器晩成

★漢字だけの文を日本語として読むために、活用語尾や助動詞、助詞を補ったものが送り仮名。

②書き下し文「開く」の「く」を「開」の右下に片仮名で補う。

③書き下し文「大器は」の「は」を「器」の右下に、「晩成す」の「す」を「成」の右下に片仮名で補う。

3①我作詩　②歳月不待人

★漢字の読む順番を示したのが返り点。送り仮名と返り点と句読点を合わせて訓点という。

①「作詩」という述語＋目的語の構造。「詩」の次に「作」を読むので、「作」の左下に「レ点」を施す。「詩」の右下に「ヲ」、「作」の右下に「ル」を、それぞれ送り仮名として片仮名で補う。

②「歳月（不）待人」という主語＋述語＋目的語の構造。「不」は助動詞「ず」に当たるので、「待」という述語の次に読む。「待」「不」の左下に、それぞれ「レ点」を施す。「歳月」の右下に「ハ」、「人」の右下に「ヲ」、「待」の右下に「タ」を、それぞれ送り仮名として片仮名で補う。

1 再読文字 ①

訓読上、一度読んだ字を下から返って再び読む字

❖ 未・将・且・当・応

未ニ〜レ有ニ封侯之賞。

〔史記・項羽本紀〕

読 未ダ〜〔セ〕ず
意 まだ〜〔し〕ない

未だ封侯の賞有らず。
まだ諸侯に封ずるという恩賞がない。

将(且)ニ〜レ引レ酒ヲ且ニ飲レ之ヲ。

〔戦国策・斉策〕

読 将(且)ニ〜〔セ〕ントす
意 〔今にも〕〜〔し〕ようとする
〜〔する〕つもりだ

酒を引き寄せて、今にもこれを飲もうとする。
酒を引きて且に之を飲まんとす。

当(応)ニ〜レ吾当レ王ニ関中。

〔史記・高祖本紀〕

読 当(応)ニ〜〔ス〕ベシ
意 当然〜〔する〕べきだ
きっと〜〔する〕だろう

私は当然関中で王であるべきだ。
吾当に関中に王たるべし。

基本 再読文字の読み方・訳し方

再読文字は、元々「二度読む漢字」ではなく、日本語としてニュアンスを伝えるときに、二度読んだ方がわかりやすいとして、訓読上、二度読むと決められた漢字のこと。一度目の読みは返り点を無視して副詞的に読み、二度目は返り点に従って助動詞、または動詞として読む。二度目の読みが活用して続く場合には、漢字の左側の送り仮名に従って読む。

確認 「将(且)」の二度目の読み方

「将(且)」は一度目は副詞「まさニ」と読み、二度目はサ変動詞「す」として読む。直前に読む用言を未然形にし、「ント」と続けて読む。

確認 「当(応)」の二度目の読み方「ベシ」の活用

「ベシ」は終止形に接続する。

基本形	未然	連用	終止	連体	已然	命令
ベシ	ベク ベカラ	ベク ベカリ	ベシ	ベキ ベカル	ベケレ	○

参考 「当(応)」の意味

「当(応)」は、「当然」の意味だけではなく、「きっと〜〔する〕だろう」という推量の意味も表す。「応」の方が、推量の意味であることが多い。

■次の漢文を書き下し文にし、口語訳せよ。(送り仮名は一部省略してある。)

① 未レ足ニ与議一也。
(　　)
(　　)
〔論語・里仁〕

② 不レ知ニ老之将ニ至。
(　　)
(　　)
〔論語・述而〕

③ 大丈夫当ニ如レ此也。
大丈夫＝一人前の男。
(　　)
(　　)
〔史記・高祖本紀〕

④ 趙且レ伐レ燕。
趙・燕＝国名。
(　　)
(　　)
〔戦国策・燕策〕

⑤ 応レ知ニ故郷事一
(　　)
(　　)
〔王維「雑詩」〕

解答と解説

①書未だ与に議するに足らざるなり。
訳まだ一緒に(道を)語るには足りないのである。
★「未」は再読文字。「まだ〜〔し〕ない」と訳す。ここでは、道を語り合うにはまだ能力・学力などが足りない、ということ。

②書老の将に至らんとするを知らず。
訳老いが今にも来ようとしていることを知らない。
★「将」は「〜〔し〕ようとする」という意味。

③書大丈夫当に此くのごとくなるべきなり。
訳一人前の男は当然このようになるべきである。
★「当」は再読文字。口語訳は「このようになるべき」としたが、「このようであるべき」としても正解。

④書趙且に燕を伐たんとす。
訳趙の国が燕の国を攻めようとする。
★「且」は、「今にも」と訳さない方が自然な場合も多い。その場合は「〜〔し〕ようとする」とだけ訳す。

⑤書応に故郷の事を知るべし
訳きっと故郷のことを知っているだろう。
★「応」は、ここでは、推量(きっと〜〔する〕だろう)を表す。「べし」は、助動詞なので、平仮名で書き下す。

悪（アク・オ）

❶あく・あシ〔悪・悪いこと〕▼悪人・善悪

人之性悪。〔荀子・性悪〕

人の性は悪なり。

人間の本性は悪である。

❷にくム〔憎む・嫌う〕▼嫌悪・憎悪

非下其声而然上也。〔孟子・公孫丑上〕

其の声を悪みて然するに非ざるなり。

悪評を嫌がってそうするのではない。

＊声＝ここでは評判。

❸いづクンゾ〔どうして〜か〕疑問・反語（原因・理由を問う。）⬇p.36・50

悪能治二国家一。〔孟子・滕文公上〕

悪くんぞ能く国家を治めんや。

どうして国家を治めることができるだろうか、いや、できない。

❹いづクニ［カ］〔どこに〜か〕疑問・反語（場所を問う。）⬇p.36・50

君子去レ仁、悪乎成レ名。〔論語・里仁〕

君子仁を去りて、悪くにか名を成さん。

君子が仁を捨て去ったら、どこに君子の名を成すことができるだろうか、いや、できはしない。

＊君子＝徳の高い立派な人物。

安（アン）

❶やすンズ〔安心する・安定させる〕▼安全＝寧

必能安二国家一、終定二大事一。〔曾先之・十八史略〕

必ず能く国家を安んじ、終には大事を定めん。

必ず国家を安定させ、最後には大きな事をなすだろう。

❷いづクンゾ〔どうして〜か〕疑問・反語（原因・理由を問う。）⬇p.36・50

燕雀安知二鴻鵠之志一哉。〔史記・陳渉世家〕

燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんや。

燕や雀にどうして鴻や鵠の心がわかるだろうか、いや、わかりはしない。

＊鴻・鵠＝大きな鳥を表す。

❸いづクニ［カ］〔どこに〜か〕疑問・反語（場所を問う。）⬇p.36・50

漢王安在。〔史記・項羽本紀〕

漢王安くにか在る。

漢王はどこにいるのか。＊漢王＝漢の高祖、劉邦のこと。

已（イ）

❶やム〔やめる・終わる〕

壮士不レ死、則已。〔曾先之・十八史略〕

壮士死せざれば、則ち已む。

勇敢な男が死なければ、それで終わりだ。

＊壮士＝血気盛んな男。勇敢な男。

以（イ）

❷すでニ〔すでに・もはや・もう〕

軽舟已二過万重山。〔李白「早発白帝城」〕

軽い小舟は、すでに幾重にも重なる山を通り過ぎる。

＊「重」は重なる場合は「ちょう」の読みになる。

❸のみ〔〜だけだ〕限定＝耳・爾〔〜のだ〕強調 ⬇p.78

神農以前、吾不レ知レ已。〔史記・貨殖列伝〕

神農以前、吾知らざるのみ。

神農以前のことは、私は知らないのだ。

＊神農＝伝説上の帝王。農作を人に教えたとされる。

＊「のみ」は助詞なので書き下し文では平仮名。

❶〜ヲもつテ

A〔〜で・〜を用いて〕手段・方法

以二子之矛一、陷二子之盾一、何如。〔韓非子・難一〕

子の矛を以て、子の盾を陥さば、何如。

あなたの矛で、あなたの盾を突いたら、どうなるのか。

B〔〜で・〜によって・〜ということで〕原因・理由

吾以レ捕レ蛇独レ存。〔柳宗元「捕蛇者説」〕

吾蛇を捕らふるを以て独り存するのみ。

私は蛇を捕らえることによって一人だけ生き残っている。

C〔〜を〕対象

我以レ公為二上将軍一。〔史記・項羽本紀〕

我公を以て上将軍と為す。

私はあなたを上将軍とする。

D〔〜の立場で〕身分・資格

以レ臣弑レ君、可レ謂レ仁乎。〔史記・伯夷列伝〕

臣を以て君を弑するは、仁と謂ふべけんや。

臣下の立場で主君を殺すのは、仁と言ってよいだろうか、いや、仁とは言えない。

＊弑＝目上の人（主君・親）を殺し、その地位に就くこと。

❷もつテ〔それにより・そして・〜て〕

変二名姓一以レ出レ関。〔史記・孟嘗君列伝〕

名姓を変じて以て関を出でんとす。

姓名を変えて（偽名を使って）それにより函谷関を出ようとした。

＊函谷関＝秦の東の国境を守る関所。